

日本書紀傳

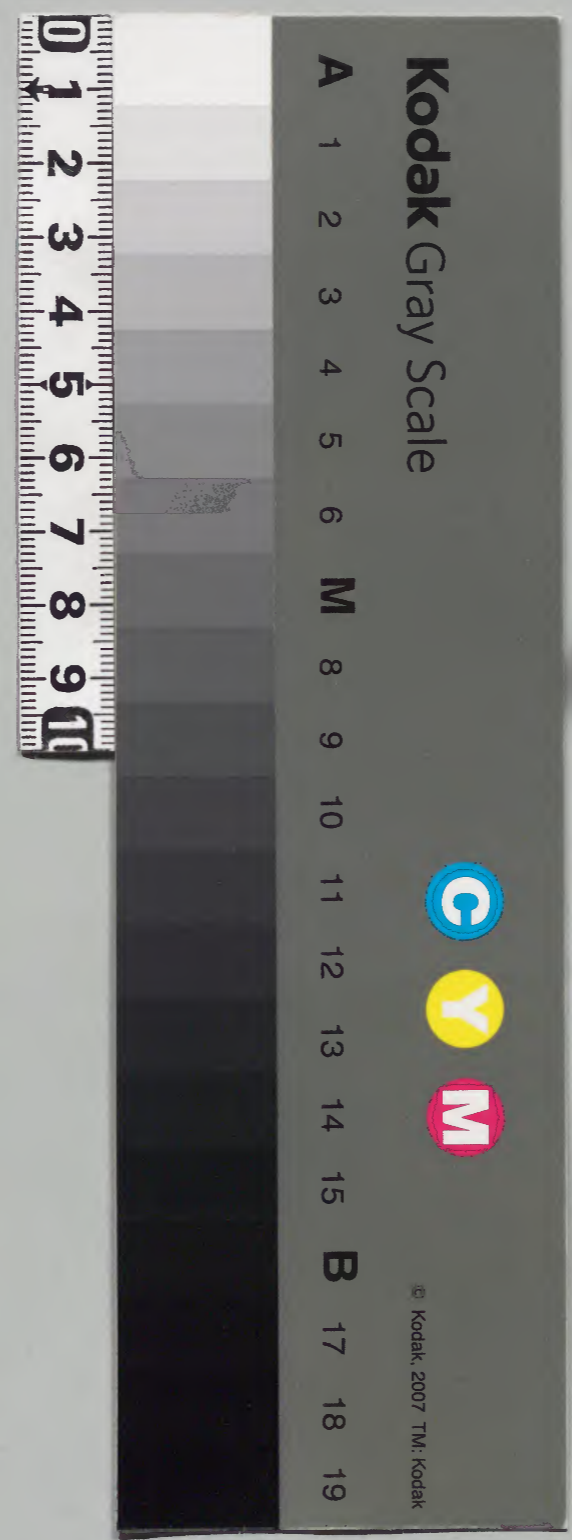
廿九卷一

和
一〇五二二號

九十二

内閣文庫	
番號	和 10522
冊數	156 (102)
函號	特 85 1

内一六六八三號



教部省
文庫印

南政書
文庫印

日本書紀傳二十九之卷

内一二六八三號

神代上第二十七 寶劍出現章 穗積重胤 謹撰

一書曰大國主神亦名大物

主神亦號國作大已貴命亦

曰葦原醜男亦曰八千戈神

亦曰大國玉神亦曰顯國玉

日本書紀傳二十九

〇一

南政書

神其子凡有一百八十一神

此ハ大國主神大亦名を擧るに件あり借古事記
ハ大國主神と申奉る御名を以て御本名ハ立
小にありけりを御紀ハ正書ハ押通して大己貴神
と申奉る御名以て主張ウりたる御本名ハ趣あり小
此傳ハ限り古事記の立所と同一なりけりハ此
第一一書ハ素戔嗚尊自天而降到於出雲敷之川上則
見稻田宮主葺狹之八箇耳女子號稻田媛乃於奇御戸
為起而生兒號清之湯山主三名狹漏彦八島篠一云清

之擊名坂輕彦八島手命又云清之湯山主三名狹漏彦
八島島此神五世孫即大國主神と有る此文の續をを
以あり借又其一書より此ハ讀續け味ふるに全く古
事記と同一なり古傳説ハ愛くし何と云へハ
更ありけり但其八島野神より五世孫と云事ハ己ハ
傳二十四三十一ト小委ト辨云々ハ如く本あり傳ハ誤
多事論を待す又其八島篠神八島手神八島野神と
申せし御名ハ地神本紀ハ大己貴神の御名を載
して亦名八島士奴美神亦名大國主神亦名清之湯山
主三名狹漏彦八島篠亦名清之輕名坂輕彦八島手

命亦名清之湯山主三名狹狹彦八島野と有る此亦
 甚正一子亦名の例と聞えたる但右の八島士又美
 神より以用下八島篠神八島手神八島野神と云は
 或ハ言ハ略有り又ハ音の通ひ有り又意の轉り有雖
 云以テ行く時ハ唯一御名を聊其唱ハ異れり
 云ふルハ此四の御名を想合せて一の亦名の例とハ
 爲べきあり此四の御名を合せて亦名と爲る事ハ
賜物あり由其傳二十四卷十四下ハ委しく注せり
如し諏訪祝家の系譜ハ建速須佐之男命其子八島士
又美神亦名大國主命亦名大己貴命と傳ハりたるハ
合れハ以外ハ受り所有るありずハ此第一一書ハ
五世孫大國主神と有り古事記ハ八島士又美神以
下五世の神名の落と無く傳ハれりを知るべきハ其

詳ふるを捨て租ヨを取て云 借此ハ大國主神亦名大
 事ハ決めて有まハり者あり 物主神亦號國作大己貴命亦曰葦原醜男亦曰八十
 神亦曰大國玉神亦曰頸國玉神と有て合じて本名亦
 名共ハ七名有り中ハ大物主神ハ大國玉神ハ二柱ハ
 即此大神ハ和魂と荒魂とハ別ハ一神の狀ハ
 渡り世給へルハ等しく亦名とハ申あぐり謂ゆる分
 身ハ御神ハ一端在り坐り然ルハ此亦名の例をハ略
 く可此二神を降く時古事記ハ大國主神亦名謂大穴牟遲神亦名謂
 葦原邑邑許男神亦名謂八十矛神亦名謂宇都志國玉神
 并有五名と有り合り然ルハ其記ハ大國御魂神也

故其大年神取神活須昆神之ヤ伊怒比賣生子有
誤多事已小傳二十六ハナ小委ハナ辨ハナ如
又其和魂神の出自を云ハナ其水垣宮ハナ至て不
意大物主大神と出給へり其も強て助云ふ時ハ神
代小幸魂奇魂神の依來坐ハナ所小此者坐御諸山上神
也ハナ有引附ハナ爲べりれども此ハ紀記共小甚
誤有ハナ事共ふむ多在りけるを訂正して下百十小
注せりハナ如くありければ此ハ五名彼ハ五名ふ
るハ合りして未能盡せりハナ非ハナ可ハナ古語拾遺ハナ
ハ大己貴神一名大物主神一名大國主神一名大國魂

大己貴神の御事
ハナ非ハナ由下註
ハナを見り知ハナ

神者大和國城上郡大三輪神是也ハナ有ハナ大物主神大
國魂神ハナ一名ハ例小置るハナハ有ハナ其大國魂神ハ大
三輪神ハナ當たハナ甚ハナ有ハナトハナ聞推ハナ
ハナ但大三輪神三社鎮座次第ハナ引ハナ大己貴
神亦名大國主神亦号葦原醜男亦曰八千戈神亦曰顯
國玉神並有ハナ五名其子凡有ハナ一百八十神ハナ有ハナ此ハ當昔
然ハナ本ハナ有ハナ其下ハナ細注ハナ舊事紀作八名
有大物主神大國玉神日本紀同ハナ有ハナ記者ハ語ハナ
を以てハナ杜撰ハナ事ハナ知ハナりハナ作ハナ八
名ハ地神本紀ハ大己貴神亦名大國主神亦云大物主

或又頭國玉神ハ
大國玉神ノ御事
ハ其々降ク

神亦云國造大穴牟遲命亦云大國玉神亦云頭見國玉
神亦云葦原醜雄命亦云八十矛神茲有八名字其子凡
有百八十一神也但此ハ大己貴神ト國造大穴牟遲命トを二
所出セテ之ノ小ト此一書ノ七名ある小異ある正然
ルハ此ハ亦号國作大己貴神トの有テ物ト正
書第二一書小大己貴神ト出たる凡テ八名御
在シ坐あむ御紀ノ趣ハ高事紀ハ限ル事ハ非
ウケテ但七名ト八名ト大物主神大國玉神
を一名ノ例ト爲傳ハ誤ル此事古史徵己
小且云然時ハ此大國主神ハ右ノ如ク八名御
實小然在坐中不テ其和魂神荒魂神ト二名を除キ又其
大己貴神國作大己貴神ト二小在ト同言ハ合セテ一名トシ
爲三時ハ想テ御名ノ數四ある小上古事記ノ云ク八島士

奴美神ト此第一一書小謂ハ八島篠神八島子神八
島野神ハ一名ト爲時ハ此不至テ并セテ御名五
有少又神名式小大國敷神ト申す有少此ハ大國玉神
ノ別称ト所見此例ハ有テ事下九注
世不ハ如ク又日吉社記小大國作神ト御名有ハ國作
大己貴神小屬ハ又二十二社神体私記小廣矛魂神
ト有ハ八十又兵主神ト申セテ共小
任セタ亦名ト例ハ非ガ又大傳神社註進狀
小垂仁天皇御紀ヲ引テ纏向珠城宮御宇天皇仁廿七
年九月戊申朔甲子以皇ヤ倭姬命爲御杖代貢天照太

神倭姬命隨神謠立宮於伊勢國渡邊五十鈴川上奉遷
焉是時倭大國魂神著大水口宿祢而謠之曰太初之時
天照太神悉治高天原皇御孫尊尊治葦原中國之八十
魂神我親治大地官者言託焉云云大地主神之号起于
是時矣是時有又天下地主神と申す此大地主神と申す荒魂大國
玉神の別称大國家譜小謂也と申す然れ此亦名の例小收む可
くさるる少唯八重垣大樹神と申す一亦名
と所思六りけり此を合せて想ての御名世名御
在坐と謂つ可き狀ふりけり又古事記小事代主神
娶八島年遲能神之マ
鳥耳神生子鳥鳴海神と云事有雖傳誤ある可
き由已小先達と云り此小就て思ふ小八島貴と申す

神名ハ此大國主神を除て他小何神を、祢奉む十決
めて此八島士双美神又傳二十四卷と同名ふり又傳二十四卷十
丁小注せり如く同記大國主神の四世の祖神小
布波能母遲久奴須奴神と申す御在坐せり此大
國主神ハ素戔鳴大神の直小御子小こり、御在坐
けり六世孫と云事是謂れ無御事ありけり其ハ
亦名りて大國已貴國終主神の義ありむ混いたる
と所思りけり此外も然る類亦名も猶有ぬ可
くも 儲其七の御名御在坐中大已貴神と申
奉るハ傳二十三二百七十四丁小注せり如く素戔鳴大神
の珍子小御在坐て此天下國土の全ミナを悉く小主領
き御在坐ハ此天下小神ハ多ハ八百萬神小甚勝
りして高く貴き大神と申すハ國土小獨此神ハ御
在坐ハ故ハ甚切ハ小至貴ハ可畏ハ奉る意を以て祢

奉りし御名ふ此大神の生立の御始より凡て小
直る本御名あり又葦原醜男神に申奉る古事記小
八十神の爲に被宮させ御在し坐て御父大神の御所
に参到らせ給へる時不尔其大神出見而告此者謂之
葦原色許男即喚入而令寢其蛇室略下有威勇の天
下小勝れさせ給へる意を以て己く世に奉りし事
事御父大神の此より甚く窘め懲り試給ひて其實
否を探らせ給へる事著明なり又大國主神顯國玉
神の御名に同記其御父大神の御許より逃歸らせ給
ふ時小追及て遠望許謂大穴牟遲神曰其汝所持之生

大乃生弓矢以而汝哀兄弟者追伏坂之御尾亦追撥河
之瀬而意禮爲大國主神亦爲宇都志國玉神而其戎之
カ須世理昆爲嫡事中略而居是奴也之所見た此二
の御名に御父大神より授賜へる事即御職号
と小申し可き状あり其より後小本御名に立ふ
む是ありけり又八十女神に申す大倭神社注進狀
小傳聞八十女神者大己貴命以廣牙爲杖令撥平豊葦
原中國之邪鬼是時大己貴命号曰八十女神之所見た
此ハ專國土に在り邪鬼を退治させ御在し坐ける
間々御名あり古事記小此八十矛神將婚高志

國之沼河北賣幸行之時云々有て其御歌ハ沼河
比賣ハ歌ハ須勢理昆賣命ノ御歌ハ此御名を詠
世給ハ此ハ當時此御名を以て祢奉ハ此ハ間ハありけり
又八島ハ士奴美神ハ八島知生主身神ハ義あり八島藤神
ハ八島知主神あり八島手神ハ字ハ如くハ手ハ國
土を經營ハ世給ハ意八島野神ハ八島主神ハ此四
共ハ皆同ト事あり其上ハ清之湯山主ハ三名ハ枝漏彦ハ
置ハ清之繫名ハ枝輕彦ハ冠ハふハ世奉ハ清ハ正書ハ
素交鳴大神ハ遂到出雲之清地略於彼處建宮ハ有ハ
是ハ古事記ハ謂ハ須賀宮を云ふ若て正書ハ其

を吾見宮ハ所見たハ此大神ハ此御見を令生給ハハ
後ハ佗ハ物爲ハ世給ハ在ハ坐ハ此宮ハ已ハ此
大八島洲國ハ主ハ傳ハ給ハ事傳二十三ハ二百七
二十四ハ注ハ加ハ又八重垣ハ大樹神ハ申ハ
其事ハ就ハ祢奉ハ此ハ事申ハ更ハ其事ハ傳
二百五十五ハ注ハ又出雲風土記ハ大原郡城名
槌山郡家正北一里一百歩所造ハ天下大神大元持命爲
伐八十神造城故ハ城名槌山也ハ云事ハ見ハたハ此
大樹ハ大城ハ可ハけハ八重垣ハ内外ハ霧を云ハ
者ハ見ハ下ハ注ハ備上ハ此一書ハ七名ハ在ハ
坐ハ其中ハ大物主神大國玉神ハ二名ハ其和魂神
荒魂神ハ在ハ坐ハ各別ハ一神ハ渡ハ世給ハ此

此亦名例非由云其大倭神社注
進狀傳間倭大國魂神者大已貴神之荒魂與和魂戮
力一心經營天下之地建得大造之績略有文意
其主神日大已貴神却在坐荒魂在大國魂神と申
一和魂を大物主神と申せる其二神と共あ合せて三
柱神相並あして此天下を經營り大造の功績を建
せ御在坐あけり趣ある事ありけり所以
小天孫降臨章第二一書大已貴神の隠れさせ給へり
後あ是時歸順之首渠者大物主神及事代主神乃合入
十萬神於天高市帥以昇天と有あ其時此大物主神の

御爲あ其后神をさへ賜へりて別あ一神多
事を知へり又出雲風土記小意宇郡飯梨郷郡家東南
三十二里大國魂命天降坐時當此處而御膳食給故云
飯成神龜三年改字飯梨あ有あ其和魂神と別あ御休あて天
上あ亦名と申あ事日御在坐人間あ名有少字有
て一物あ二あ三あ無用あ号あ異あ上代あ
名と云事あ傳あ四あ注あせるが如く景行天皇
の大御言あ大倭國者以行事負名國と詔給へり
如く其行事あ因就あ異あ名あ負給へりを其

行事の状小因て其本体の外小別小分形を成し
 給ひて物爲させ給ふ事なむ御在し坐て聞カレバ其
 亦名と申すゞ分魂の御名小御在し坐めを此和魂
 荒魂神の如きハ殊更不定なり其下ハ御業の御在
 一坐が爲小常小御分形小御在し坐て其御本体の左
 右小並び御在し坐て凡て三神小て萬を政令給へる
 御事なるむ所見させ給へりけり故此荒魂和魂の御
 事委しくハ傳十三百四小注あり又十五卷二百十八
 國主神の御子味耜高彥根神に申せるハ其小對ひて
 天下を經營させ給へる意の御名あり其和魂を事代
 主神に申して大物主神に對ひ荒魂を一事主神に申
 して大國玉神に對ひ給へる此ハ右小同ト本ハ

一神小て渡らせ給へれば和魂荒魂神共々各分形
 一給ひて三神に成らせ御在し坐るあり此事を考
 合せて其御魂を別りて殊小各一神に坐る事を思ふ可くある
 第一一書小出たり即傳二十四三十九小己小奈し其
 御名小員坐る所由ハ一々曲小注し奉りてを此小
 ハ其義を説奉る可きあり諸古事記ハ此一書と同
 小大國主神に申奉る此御名を本と爲し記し奉る
 れハ大ハ所以有る御事ありけり其文ハ故此大國
 主神之兄弟八十神坐然皆國者遊於大國主神略と見
 えたる皆國者遊の四字小深く心を著し見ると其御
 兄弟の八十神ハ一ハ此國土を區別し各相領知る國

主の神小て有るありけり然れども未其君長とて
云べき神多む非りけり彼神武天皇御紀に謂や
遂使邑有君村有長各自分疆相凌蹠と云ふ有狀
有けり此は此大國主神の御父大神の珍子小
御在り坐て其生坐り始り須賀宮を賜ひて吾
見宮に詔給ひ其宮首小足摩乳手摩乳神を
田宮主神と任り傳り聞えさせ給ひ置りて已尊
り別處小物爲させ御在り坐て其御児の生えを
む試させ御在り坐て其長あり給へり御上を見行
り御在り坐て後小大國主神と成り奉らせ給ひ御

又傳り八百三十三年出雲神を賜

心の残り方無く治置せさせ給ひて終小根國小入
給ひむり爲させ御在り坐り程こり有けれ此時
大國主神未推りて御在り坐けれ此神をり君長
と仰奉りすりて却りて輕め奉り方小て競争ひ
奉りけり事其次小其八十神各有欲婚禰羽之八上
此賣之心共行禰羽時於大穴年逢神負益爲從者率往
り有る此一事を以て想ひての消息を想ふ可くあり
有ける然れ此は皆國者に有る皆は八十神小係り
て盡すの義あり國は其八十神の主領り居る國を
云あり此時未其國の國主神を想ね所知食す御威

勢の及ばせ御在し坐ざりし向ふりけり此ハ大國主神
と申奉る御名も御在し坐ざり故に此ハ尋常の御
名の大元年遷神と申す方を以て書し別に此ハ古
の用意有る事此を以見る可し記傳十卷四下小皆國
者遷於大國主神此ハ後日事を先言置て次ハ其然る
所以を初より此次より下文の毎坂御尾連伏每河瀬迄
撥而始作國也ハ有る處迄皆其事ありしハ有る通
るあり但其次ハ皆ハ八十神皆ありしハ有る然
る事あり國ハ天下を云ふハ有る少く予が見る所
ハ異あり予ハ見ハ國ハ八十神の各主領る國を
云事皆國と有る所知たり其を合せて所知看す
大國主神の御上ハ取てハ天下の事ありしハ八十神
ハ係り此ハ云るハ其區別て國相領知る各國を云
ハ有然して後ハ此大神ハ八十神の爲ハ甚く被
害せ御在し坐けり其須賀宮ハ留すの御在し

坐難き事の勢ハ相迫りしハ御祖奇稻田姫命の
御趣けハ依り木國ハ御在し坐す御兄大屋毘古神の
御所ハ速ケレ違給へりけり此ハ其神の御許より御父
素戔嗚大神の御所ハ奉出し給ひけり其大神の御
議ハ此神を試せ給ふ御心あり御在し坐けり
本より八十神ハ甚く懲り給へり上ハ此ハ又
其大神ハ己ハ殺さむとせハ爲る御在し坐けり
御事想て四度の御宮あり然るハ其後神須勢理
毘賣命の後方より助奉る給へり御事ハ依り悉く
不得堪る御在し坐し己ハ其御許より還御在し坐

ける時、文小送望呼謂大元牟遲神曰其汝所持之生
大乃生弓矢以而汝夜兄弟者追伏坂之御尾亦追撥河
之瀬而意禮爲大國主神亦爲宇都志國玉神而其我之
汝須世理昆賣爲嫡妻而於宇迦能山之山本於庭津石
根宮柱布乃斯理於高天原冰椽多迦斯理而居是故也
と見えたり是素戔嗚大神の國引小引來て終足ハ
して造立させ御在し坐ける此國土の全を經營り給
ふ可き御職小事依さ北奉給ふ所ありける此小汝夜
兄弟に有ハ上小謂也故此大國主神之兄弟八十神
坐こ有る是小て各々國々小自立て君長て成れる國

神を云ふあり追伏坂之御尾亦追撥河之瀬と云ハ其ハ
十神をいへ各其處を令得給ふとあり然して其ハ
十神の歸順ひ奉るる上ハ此大神の獨抽出て即
大國主神といへ其小君長と御在し坐し宇都國玉神
といへ國土小德澤々幸給ふ可き事依し聞えさせ御
在し坐けるあり然して其我之汝須世理昆賣爲嫡妻
ハ聖武天皇御紀立后詔ハ又於天下政置而獨知倍物
不有必也斯理幣能政有之倍云云と有る此御意味あり
御言あり可し次小宇亦迦能山之山本於庭津石根宮柱
布乃斯理の御言ハ今迄須賀宮小御在し坐ける

ハ謂ヨリ儲君ニテ御在シ坐レシ間ノ御座所ニテ
改メテ天下ノ諸神ノ朝参スル大宮造ノ御事を事依
シ進クセ給ヒテ其大國主神ニテ渡クセ給ハ威儀ヲ
天下ニ示シ御在シ坐レヨ由ケ教ヘ聞エサセ給ヘ
小ノ有レキ其次小故持其大刀ヲ逆避其八十神之時
每坂御尾追伏每河瀬追撥而始作國也ト有ハ此御時
小至少テハ御父大神ノ甚トシ御稜威ニ相預ル
セ御在シ坐レシ先ハ然レテ被慙サセ給ヘ
クニ安ク事ト無ク小歸順ヘサセ御在シ坐レ始
作國也トハ大國主神ノ御任小當クセ給ヘテ神業ニ

亦ハ事始メ物爲サセ御在シ坐レテ謂アリケル
傳ナ三卷二百三十一丁中四卷ノ卷末小赤ク
を見合せて曉テ可シ又記傳ニ引レタル出雲風土記
小大原郡來次御郡家正南八里所造天下大神命詔ハ
十神者不置青垣山稟詔而追燒時此處逆次坐故云來
次見之城名極山郡家正北一里一百步所造天下大
神大元持命爲代八十神造城故云城名極山也ト有
此時ノ御事ナリ傳此ト其八十神ヲ悉ク皆ク
殺シ給ヘテ有レテ從ヘテ給ヘリケル事上文小故此
大國主神ノ兄弟八十神坐則然皆國者避於大國主神
ト有レテ著ク其ナリ後ハ打任セテ表立テテ御名
を大國主神ニ申奉ル御事ナリ故須執理昆賣命ノ御
歌小夜知富許能加微能美許登夜阿賀淤富久迹奴斯
許曾波略ト注ハセ給ヘル名義ハ大ニ總括ス意アリ

今現世の狀を以て國
の各其を有つて
有れども大君に申奉
る時天皇は御事
を渡して給ふ事
然れども有り續けて

ければ國主と引續けて心得て然して各國の各自
小國主神有て其國を主領けり其を總ねて所知
者之意を以て大國主神と稱す其即天下國土の
主宰ありて渡りて給ふ義は唯大國の主宰と申す意
不見る粗き説あり可し備其各國小國主神有る云
ふ證は其ハ天孫降臨章第二書小故天津彦火瓊瓊
杵尊降於日向穗日高千穗之峯而齋完胸副國自頓
丘覓國行去立於浮渚在平地乃召國主事勝國勝長狹
而訪之對曰是有國也取捨隨勅之所見也是即其境
域を定めて主領け居る國主神有る事を知て明文

又下ニハカヲ攝管
風土記ニ天日槍命の
宿禰を立率皇正に
與乎命ニテ申す所
小波國主欲得吾
所宿之處を許す
品許海中有大
國主神の御事な
り攝管一國の事
也又神名式神
名正五位上國主明
命神に申す有る
姫社記に豊耳
命娶國主神
女云天道根
命國主御神其
子坐之也有り
右の例あり

ふり新此ハ其正書小大己貴神の國避り御言小故吾
亦當避如吾防禦者國內諸神必當同禦今我奉避誰復
敢有不順者に申給へる國內諸神に云ハ其御所置を
仰奉るる國の國主神あるが其を從へ御在り坐
す大國主神の避奉りて給ふ上ハ誰の國主神の防
禦奉る者有むに申給へるふて甚能通えたり備此の
正書小吾是國神號脚摩乳子摩乳に名余り申せりを
始として神武天皇御紀の中ハ臣是國神名曰珍彦又
臣是國神名曰井光と有る如きも各其地主神の謂ふ
れば其小國主神の義ある事より更あり如此く掌別

て國を保つ國主神の有を其君長して渡らせ給へ
るが故に大國主神といふ稱奉る御事ある者明り者ふ
りける然れハ其各國の國主神の國造縣主おどりの如
く大國主神といふ天皇尊の如き御有状ありけむ御
事此を以て想像し奉り知べき者ありけむ記傳十卷
五十八丁
大國主神名義ハ天下を伏して宇志波久神と云意
ありけむ云々其説不於て誤じ云ふハ非れども他
小國主神といふハ多在るを其を總合せ所知食す故を
以て大國主神と稱奉る意ハ見ゆる所也大國といふ
を唯天下を云て思はれたるが故あり其ハ已く纂疏
大國主者主三國之者也注さ給ひ通證ハ大
國主者領大國之者也云々僻説不思い交さるる
者ありけむ然るて其諸國の國主神の君長して渡
らせ給へるハ天下ハ大國ハ本より主事と御在
し坐す謂あるを以此事恐るる諸家共誤る可し

備右の國主神と申すハ自然ふりて國作神の義を
む兼なりけむ其ハ上より引る古事記ハ御父大神より
為大國主神亦為京都志國玉神と云ふ御事依り御事
御在し坐す後ハ文ハ追尋其八十神云云而始作國也
と有る即其照應ある事を知べし備此大國主神とい
其從奉るる國主神等の御上にも同し事にて國主
る唯小國長と見ても事ハ無じある物る其事を正
し辨へむふハ已二十丁又
七十四丁不注るが如く主と
云ハ成爲の義ありけむ物を作成して其小君長と有る
謂ありけむ其ハ此下ノ旨古事記大己貴命謂少彥名命日吾等

所造之國豈謂善成之乎少彥名命對曰或有所成或有不成也而有作之成之對云又古事記の少彥名古那神の常世國不變坐し所は於是大國主神然而告吾獨何能得作此國孰神與吾相作此國耶是時有光海依來之神其神言能治我前者吾能共與相作成若不然者國難成也而有作之成之交へたり此等の例共を以て小國主こと云は其國を作し其君長に有る謂ある事と思ふ可くある有けり故其記御天降臨し向其大國主神言天照太御神高木神之命以向使之汝之字志波祁流葦原中國者我御子之所知國言依賜と有る字

志波祁流の言ハ字志其作らせる葦原中國の君長たる義あり波祁流ハ帶刀獲咎ふとの波久みり其葦原中國を佩持せり由りて大國主神とて此國土の主宰して御在し坐す謂ある其小ありハ國の國主神と云は其義相等しきを其を輯合せて甚比しハ無く大も持たせ御在し坐す故ハ大國主神と稱奉れりありけり又此下四十四丁ある國作大已貴命の下小注せり事共をも合せ考ふ可し唯ハ大國の主宰と云は時り神ハ死物も成て物の上も居て何の爲出る事も無く無用の長物ありむハ争でり天下を作らせ御在し坐す程の御力ハ御在し坐す又其下小屬奉らるる國主神も於て然り其功の無き如何ハ其地も主たり事ハ○大物主神ハ出雲神賀詞小國作大國主神

大地主神に見えて荒魂小大國魂神の御名御在し坐
す時、其並び小和魂小已小大物主神の申奉る御
名も御在し坐けし事推て知べし然る時、其八咫鏡
小御魂を取託させ御在し坐て皇御孫尊の近守神と
奉る也給へる御時小當りて其搦毬玉命の申す御名
の添給へる小不有ける 借此下文小大已貴神の幸魂
奇魂神小見え奉る也給ふ所
小今欲何處位耶對曰吾欲位於日本國之三諸山故即
營宮於彼處使就而居此大三輪之神也と有る幸魂奇
魂をいし和魂の御事と爲る大ある誤ある事次卷不
辨ふる也如し其御事ハ古事記ハ吾者伊都岐奉り
倭之青垣東山上此者坐御諸山上神也と有る大國主
神の齋奉る也給へる大神小神名式小謂ゆ大
和國城上郡神坐日向神社大月次新嘗と有る此御社
の初小大物主神の鎮坐すより遠く古昔の

御事あり思混ふる事勿れ然るを平田史第九十五段
小右の二文を綴り合せて終小此者大三輪之大物主
神也大國主神之和魂也と云るハ彼借天孫降臨章第
二一書大已貴神の隱坐し所ハ是時歸順之首深者大
物主神及事代主神乃合八十萬神於天高市帥以昇天
陳其誠欵之至時高皇產靈尊勅大物主神汝若以國神
爲事吾猶謂汝有疏心故今以吾女三穗津姬配汝爲事
宜領八十萬神永爲皇孫奉護乃使還降之と有る即其
國邊の以前小其大御和乃神奈備小鎮置せ御在し坐
けし和魂の現身と成て天上小參向ハ也給へるふり
借其神奈備ハ神名式小大和國城上郡大神大物主神

天皇七年御紀朕欲見三諸岳神形の下或云此山之
神爲大物代主神也有之其三諸岳傳十一
注云如高市郡飛鳥地有之云云此一
書云三諸山有之即大三輪之事多不就右或
云云說有之此云其大神大物主神社之神
を然申奉り一事あり灼然り猶神名式小播
磨国完栗郡大倭物代主神社に申す必同神不渡
く世給ふ間中を右に引き天孫降臨章第二一書
小大物主神事代主神と有し御父子二神共各其和
魂神不渡く世給ふ此を以見る小物代主と事

代主と此二神ハ物を知る事を知る稱別る此
たる御名ハ御在一坐し故試す右に續く文
小高皇產靈尊の御命ハ宜領八十萬神永爲皇孫奉護と
有し國神を領て皇御孫尊を奉護く世給ふ御事ハ
是即物を知る又古事記あり大國主神ハ天神ハ
申さ世奉給ふ御言ハ亦僕子等百八十神者即八重
事代主神爲神之御尾前而仕奉者違神者非也と有る
此違又不違ハ其領給ふ國神ハ上ハ在る事ハ云者不
くす此即事を知る云者あり備其物と云ハ謂ハ
國神を云て各其持別テ領知る國土ハ事ハ不ま至ル

ウケル其崇神天皇十年御紀武埴安彦が謀及の所
百襲姫命倭迹迹日の吾南武埴安之妻吾田媛密來之取俣香
山土曩領巾頭祈曰是倭國之物實則及之望能志呂物實此云是
以知有事焉非早圖必後之有る物實ハ一撮り土を
取收めて大地の全を取奉りむと謀はる呪術コトナヒあり
此物實即此大物代主神の物代也亦其義の歸る所上
小注る事共小合せ讀て知て然れば大物主神大物
代主神と申奉る大地不在國神を以此國土をも想はて其主
宰小て渡りせ御在り坐す謂て大國主神と申奉る
御名は唯少く異ある所有のり如く直小指し廣く大地に在り此物實ハ事ハ已不
傳十五卷三百一丁

小彼瑞珠盟約章あり物根を古事記ハ物實に有る
所其例證を正して奉り注せらば如く此を倒及す
時ハ今俗ハ資財を志呂物と云る是ハ志呂ハ我
ハ預り知と云事あり信又此も物代ハ神多し有る其
君長じして上小立せ御在り坐す就大物代主神と
稱奉る事あり右小注せし大國主神ハ大と目下例
ありて大物と續くハ非ず若て其倭大物主攝冠玉命
物代の上小大り添らあり三三二小注し奉れり如く
と申奉る御名ハ傳下三四丁
御父素戔鳴大神の御事を出雲神賀詞ハ伊射那伎乃
日眞名子加夫呂伎熊野大神攝御氣野命と稱奉る小
合せて攝冠玉命とハ號奉るせ給へるあり此冠ハ本
イの借字あり物々イカ巖イカ通ふ美迦とハ異して右の
攝御氣野命の御氣と同一事あり故其御名と申すハ

謂ゆる土毛の事にして国土の内生して生出る草木を
云あり木ハ毛ハ義草ハ毛狭ハ義多ク是より若ク此
を用ふ方ハ食物に成り着服に成り舎宅に成り所
以ハ食を氣と云ハ衣を伎流と云ハ初流と云ハ語有
ハ舎宅ハ氣と云ハ迦と云ハ言有ハ是あり若ク其
御父大神を以テ然福奉ハ即掃御氣主命に申奉
義ハ即滄海原潮之八百重を所知看させ給ハ御事
あり其ハ對ハ掃毼玉命に申奉ハ掃御氣魂命に
稱奉ハ意ハ御父大神を主ト爲ハ其輔相ハ御在
ハ坐ハ義あり凡テ某魂神に申ハ例ハ下ニ下大國玉

神ハ下ハ例を引テ曉サカ如ク其主ハ神ハ御在ハ
坐を立テ其神功を輔相奉ハ世給ハ謂ハ是あり然ハ
御父大神より受賜ハ其主神ハ御在ハ坐ハ大國
主神ハ渡ル世給ハ其掃御氣野命に申奉ハ御職
を継テ此滄海原潮之八百重小君主ハ御在ハ坐ハ
此大物主神ハ其和魂神ハ御在ハ坐ハ萬ハ物實
の主宰ハ坐ハ世給ハ此ハ其掃毼玉命ハ福ハ號ハ
世給ハ入ル實ハ所以有ハ御事ハ少ハ此某魂神
所以ハ己ハ傳ハ卷二十九下ハ卷四十五下ハ卷
八十下ハ注セハ猶此下ハ神ハ長官ハ某魂神ハ申ハ方
次官ハ見ハ時ハ目易ハ又体用ハ差異を立テ見

籬を造りて其大三輪山持齋の世併世祭りし給ふとあり
此御事を姓氏録山城國神別天神小神宮部造葛城一本猪石
閑天降神天破命之後也六世孫吉足日命磯城瑞籬宮
御宇謚宗天皇御世天下有災因遣吉足日命令齋祭大
物主神災異即止天皇詔曰消天下災百姓得福自今以
後可為官能賣神仍賜姓官能賣公然後庚午年籍註神
宮部造也有宗神天皇七年御紀小此大物主神大
御宗御在坐令祭給へ事有小合せたり説ふ
ふめども其時以大田田根子為祭大物主大神之主
也今之有けれ紀記共小吉足日命事傳くざ

る上小此鎮座次第姓氏録より後小出来れ物
あり小其小承きて宗神天皇御世の事を孝昭天皇御
世の云事却少社説小傳ふ所最正し據有と
ころ云べりけれ然して少彦名神の御事ハ同書
小磐余甕粟宮御宇天皇勅大伴室屋大連奉幣帛於天
三輪神社祈禱無皇子之儀時神明憑官能賣曰天皇勿
慮之何非絶天津日嗣哉上古吾與少彦名命戮力一心
所以經營天下其所以而今少彦名命來臨吾邊津磐座
與吾及和魂共能可敬祭守皇孫濟人民矣於是起立磐
境宗祭少彦名命于時天皇元年冬十月乙卯日也見

公神功皇后元年御紀証釋の御政の時小則大輪社以奉神牙笑の見えたる神名式小筑取回夜須郡於保奈半智神に見え

えたるハ清寧天皇御世の御事あり右の神託の中
與吾及和魂の詔給へる吾ハ即大己貴神の御事あり
然ハ大輪社三社の云事社説カ私ハ非ず同書
小神階之事貞觀元年正月廿七日奉授大己貴命正一
位大物主神從一位同二月朔日大物主神奉授正一位
と有る大物主神ハ一等後水世給へるを以てハ大
物主神一神ハ御在ハ坐さる證と云へハ古語拾
遺ハ大己貴神一名大物主神一名大國主神一名大
有ハ大己貴神ハ大三輪神と申せるあり又地神本紀
小大己貴神坐(伏)和國城上郡大三輪神社也次須勢理姫神大神嫡后

也と有るハ大神大物主神社云事を知ずハ云ハ
非ず又神名式小城上郡狹井坐大神荒魂神社五座歟
と有る大物主神ハ荒魂神ありハ一應ハ思ふ事ハ
ら大倭神社注進狀小傳聞狹井神者大己貴命之荒魂
大國魂神と有ルハ即大己貴神ハ荒魂ハ渡り世給
へり如此く古より正しく傳ふる所三座あるを式文
小一座と爲るハ拾遺ハ云ハ此ハ當昔中臣氏權を專ハ爲し保
取捨任意ハ爲る神帳ハ有けるを正しく教ふるハ
者ハハ甚恐しハ何と云むハ中ハある御事ハ
るハハ況て少彦名命ハ神階ハ沙汰ハ及ハ
せ給ハハ甚遺憾ハ御事ありハ

有一貴人對法殿戶自稱大物主神曰天皇勿復為愁國
之不治是吾意也若以吾見大田田根子令祭吾者則立
年矣亦有海外之國自當歸伏秋八月癸卯朔己酉傳迹
速神淺茅原目妣姬穗積臣遠祖大水口宿禰伊勢麻績
君三人共同夢而奏言昨夜夢之有一貴人誨曰以大田
田根子為祭大物主大神之主亦以市磯長尾市為祭倭
大國魂神之主必天下太平矣天皇得夢辭益歡於心布
告天下求大田田根子即於茅渟縣陶色得太田田根子
而貢之略中十一月丁卯朔己卯命伊香略中即以大田田根
子為祭大物主大神之主又以長尾市為祭倭大國魂神

之主略下見え此事古事記水垣宮段下此天皇
之御世疫病多起人民死為盡爾天皇愁歎而坐神牀之
夜大物主大神顯於御夢曰是者我之御心故以意富多
多泥古而今祭我御前者神氣不起國安乎是以驛使班
于四方求謂意富多多泥古人之時於河内之美努之村
見得其人貢進略中於是天皇大歡以詔之天下平人民榮
即以意富多多泥古命為神主而於御諸山拜祭意富美
和之大神前有此御時至此神御齋有
大田田根子命を今祭給ハ此事を乞奉甘御
在一坐け鎮座次第御紀を引了每年首夏

又此大物主神と曾
富原神といふ國神とい
申す事有り傳
二十六卷詳しう必
此ふ合せ見べし

仲冬卯日祭起于此時矣注せり然る事あり
孝昭天皇御世小吉足日命をして宮能賣公として祭
くしめ給へるより以來未此神の御末たる大神氏の
人其祖神に仕奉る事無し故に此の至り
て此神記の御在し送けるあり其孝昭天皇元年より
崇神天皇七年に至る迄凡其年數三百八十年許り成
りし斯く御事こころの御其八年御紀小夏四月庚子朔乙
卯以高橋邑人活日爲大神之享酒享酒此云冬十二月
丙申朔乙卯天皇以大田田根子令祭大神略下有有る此
小大神の字二處小出たる上ふる本小意富宇牟和
と訓る意富美和を記しあり次あり其祭神を
指さして即上謂ひ大物主大神の御事を申奉れ

るあり傳傳十六八十九小注せり加世小園韓神と
申す園神い此大物主神小御在し坐し韓神と申
す大己貴少彦名二神して渡り世給へる其元由を原ぬ
る小此大三輪神三社を然稱別て被祭たる者ありけ
り所以七年小右の神託亦有海外之國自當歸伏と有て
其六十五年小任那國歸化シラカヒり又神功皇后元年御紀征
韓の御政の時小令諸國集船船練兵甲時軍卒難集
皇后曰必神心焉則立大三輪社以奉刀矛兵軍衆自取と
有る思寄す可又雄略天皇十四年御紀小吳國小
手末才伎を獻小以衣縫兄媛奉大三輪神有

海外の國を以て我朝に歸伏し、御在し坐を以て
 の御會釋あり、偕右に大神二字を意富美和に被用は
 る、其下に唯に大神カホミと書されたる如く、古大神カホミ
 國を主領御在し坐し、程より天下に在り有る國神
 の中、小大神カホミと稱奉る可き神あり、唯大國主大神一
 所あり、御在し坐し、其に繼て、味耜高彥根神を唯に
 神カホミと稱カホミまへ申せしむを、又其大和一國の中、小
 て並無く尊き大神と稱し、朝廷より崇奉せ給へる
 此大三輪、小換て大神カホミの字と成し、義を以て知る世
 あり、者あり、又其神カホミを云を轉して、鴨カホミと云ふ所由ハ

公又廻國風云、記三輪
 神北有三輪山、其上有
 三輪明神、是則大三輪君
 國神、神命也、云事有
 此、此、當、於、保、無、和

傳十五三百十 十六五十 又下十 百
 し、偕和名抄、郷名、小大和國城上郡大神於保無知、有、即
 此大三輪の地あり、於保無知カホミ、大貴カホミ、思カホミ、此
 も或説、不知を古一本、小和、小作、神名、式、多、大神
 の訓、於保無和、此ハ實、謂、然、小、其、津、國
 河邊郡大神於保無知、有、且、有、馬、郡、大神、遠、江、國、濱、名、郡
 大神、越、前、國、大、野、郡、大神、播、磨、國、賀、茂、郡、大神、筑、後、國、山
 門、郡、大神、豊、後、國、速、見、郡、大神、有、此、等、右、二、所
 の訓、注、依、於、保、無、知、訓、を、一、小、誤、ハ、云
 難、り、ゆ、け、れ、ハ、同、ト、大神、字、ハ、一、ハ、意、富、美、和、有、

と於保無知ありと必有て事あり其和泉國郷名小
大鳥郡上神加無都と有北ハ神字を美和と訓む事を
知ざらば非可け北ハ其二訓を存す可き者あり
然を大神と有北ハ何れも意富美和の事との
ハ大己貴の中略あり上ハ古語拾遺ハ古語事
之甚切皆稱阿那と云意ふれハ略きたる云可事
あり且神名式ハ越前國丹生郡大虫神社名神大小虫
神社丹後國與謝郡大虫神社名神大小虫神社名神大
と有ハ大貴神社ハ小貴神社と申す事ハ即大己貴神
少彦名神とて渡り給ふあり然して知と志と通ふ
例ハ神名式ハ駿河國富士郡富知神社と有て士と知
を通ハ又天地ハ阿未都知多々を万葉十卷三十二
下ハ阿未都之乃以都例乃可美乎四十一下ハ阿未都
之乃可美尔双佐於伎あど有見あり斯けけハ右
小引ハ郷名ハ大神ハ必大己貴神の御名より出たる
事何ハ疑を容て心狭く意富美和と力を思ひむ

ハ固陋あり 借右ハ云ハ和泉國大鳥郡郷名小上神と
い云てハ 有北ハ郷名ありぬ地ハ下神と云ハ必有ハ事あり
神名式ハ同郡生國神社見ハ又鴨田一本無神社有
ハ其津國河邊郡大神郷有て式ハ小鴨神社見えたり又
有馬郡大神郷有ハ式ハ有馬神社湯泉神社ハ共ハ三
輪神を祀ル由傳九九十四六下ハ注ハ加ハ又
三田と云地ハ北ハ三輪村と云有て式外ハ三輪神社
立世給へる事ハ必所由有ぬ可事共ハ又神名
式ハ伊勢國飯高郡大神神社朝明郡太神神社有ハ又
尾張國中島郡大神神社名神和名抄郷名ハ同郡美和

公傳三十一
本河同郡各小八各郡
矢和此傳三十一有風土記八
各郡美和神社主田辛
末所祭大已貴命
明天皇元年乙卯始奉
主田加神禮有神家並
居有美和郡美和
河事載り又本同
神名帳當郡從五位上佐
丹天神此傳三十一見申又下
小注此傳三十一武靈縣郡政院
神社を風土記此傳三十一所祭大
物主神也此傳三十一有又神名

と見ゆ又武小遠江國濱名郡弥和山神社大神神社御
在し坐を郷名小同郡大神有此傳三十一風土記小英多郷弥和
山神社主田五十束崇峻天皇元年所祭事代主命也
有以バ其大神神社亦む大物主神小御在し坐べ
くむを同記小唯大神郷の事此傳三十一の記して神社の
為事を載ず此傳三十一雖予故有て昨今兩年共小詣奉つり
る小謂ゆる遠湖の西邊中之郷村と云小立せ御在し
坐て其傍小大神の天降坐しと云ふ古跡を存し神宝
小ハ神代の曲玉敷知ず多く有て如何小音思ゆ
為社ふを風土記小傳り此傳三十一ぬる遺懐此傳三十一事ありけ



北其神名式小角避比古神社名神坐ハ傳十三三百三十三丁
小注せる此傳三十一如く素戔嗚大神此傳三十一渡り世給へる此傳三十一
得去此傳三十一り所由此傳三十一無て四此傳三十一又武小駿河國益頭郡神
神社今三輪村と云小立せ御在し坐り三代實録小貞
觀十五年八月四日 授駿河國從五位下美和天神
從五位上元慶二年五月十七日 授駿河國從五位
上美和天神正五位下此傳三十一有是なり又同抄安倍郡美
和郷有此傳三十一神名式小神部神社見えたる思合此傳三十一可し又
廬原郡御穂神社風土記此傳三十一所祭大已貴命又号御穂津
彦御穂津比咩命也此傳三十一見えて即上此傳三十一十九此傳三十一小引る天孫降

公神名式小甲斐國山
 梨郡神部神社臣郡
 神部神社御在^一等
 清^レ了^二三^三寶錄^一負
 觀五年六月八日
 國從在^下勳^十等美
 和神從在^上勳^十等美
 十^二等美和神從在^下
 同八年七月十日
 斐國正^在下^美和神正
 五位上元慶四年正月八
 日授甲斐國正^在下^美和
 神從四位下^有右^前
 郡多^奇此^不同^上百
 梅說^小神部^を美和部
 之^訓也^由傳^手甲
 上^云一^又

臨章第二一書大物主神の天上小參昇らせ給ひし時
 小天神の三穗津姫命を賜ひし妻と爲させ給へる是
 あり此事傳三十二百下十説心し又甲斐風土記小
 八代郡三輪明神圭田三十五東雄略天皇十二年九月
 始被祭之とも見ゆ右ハ五畿内ナリ東海道ノ國ト小
 在田ノ大神神社ノ較略ナリ猶此
 外トモ官帳トモ收給ハナシ又物トモ記ナリトモ神
 代ナリ故由リ有^レ神社トモ希在^一坐めども然^レハ
 得^レ求^レ出^レず後人
 猶能記^レナ可^レナリ又神名式小美濃國多藝郡大神神
 社今玉村と云小三輪明神とて立せ給へり同郡多伎
 神社笑ハ傳十五三百八十下十二注^レカ如^ク宗像神トて渡
 らせ給へれば由有り同抄大野郡大神御有り又式小

信濃國水内郡美和神社伊豆毛神社同抄郷名小源訪
 郡美和埴科郡大元於保見ゆ又式小上野國山田郡賀
 茂神社美和神社本國神名帳小從一位美和大明神ト
 有^レ是あり後紀小延曆十五年秋八月甲子己未朔甲
 戌上野國山田郡賀茂神美和神云云別並爲官社ト見
 え又本國帳小同郡磯部神社有^レ姓氏錄左京神別下
 又山城國神
 別地小石邊公大物主命男久斯比賀多命之後也ト有
 小由有り又式小下野國都賀郡大神社式社考小在
 惣社村大己貴命ト注^レ又那須郡三和神社式社考小
 在三輪村大己貴命ト云り和名抄郷名小同郡三和ト

有少續後紀小乘和五年九月辛酉下野國那須郡三和
神預之官社三代實錄小元慶四年八月十九日
下野國從五位下三和神正五位上同仁和元年二月十
日
授下野國正五位上三和神從四位下
凡此上野下野二國小大神神の御在し坐す事小必
其謂有て事分り崇神天皇四十八年御紀小天皇勅
豐城命活日尊曰汝等二子慈愛共齊不知曷為嗣各宜
夢朕以夢占之二皇子於是被命淨沐而祈寢各得夢也
會明兄豐城命以夢辭奏于天皇曰自登御諸山向東而
八迴弄槍八迴擊刀第活日尊以夢辭奏言自登御諸山

下八十九下注也

之嶺繩組四方逐食粟雀則天皇相夢謂二子曰兄則一
片向東當治東國弟是悉臨四方宜絕朕位夏四月戊申
刑丙寅立活日尊為皇太子以豐城命令治東是上毛野
君下毛野君等之始祖也
て豐城命の祀られたるも有べし又本より神代より
鎮し御在し坐す有べしむを今何れを其に定む可
るす成ふなり
其公先神名式小上野國佐位郡大國
社有を本國神名帳小從一位大國
玉大明神と有て即其本社武小大和國城上郡狹井
坐大神荒魂神社五座見えたる其神也聞え又下野
國都賀郡大前神社芳賀郡大前神社共小式社考小大
己貴命と云ひ河内郡二荒山神社名神大の一宮記小
味兼高彥根命と注し那須郡健武山神社傳十八卷
二十八下注也

い温泉神社ハ大己貴少彦名二神坐す事傳十四卷
二十六丁注せざる如く寒川郡小胸形神社の坐す
所代より始めて少縁の又神名式小若狭国遠敷郡
弥和神社今三輪オホトビ大歳彦明神と申す云り國帳小正
五位大歳姫明神と云も是ふる可き其大歳彦大歳
姫と申す神名若く右引る駿河風土記謂由
御穂津彦御穂津比咩命一名ふと又和名
抄郡名小三方美加郷名小三方と云有を式小三方
郡御方神社坐古事記水垣宮段小所見たる大物主
大神御子御方命思合す可し又越前國敦賀郡
大神下前神社式小所見たる右三方郡と相接

けり地多きを思ふ小下前下之后と申す事小天
小て聚給へる三穂津姫命小對して其御方命御
祖活玉依毘賣命御事多此ハ試小云り同
抄郷名小坂井郡磯部有又式小賀國江沼郡宮村郡
部神社菅生石部神社能美郡石部神社此三社共小大
物主神あり又加賀郡三輪神社賀茂神社並び御在一
坐る由有小風土記小濱郷三輪神社坐田八十二
束三毛田所祭大己貴命也敏達天皇四年乙未八月始
奉圭田行神事見えたり又式小越中国射水郡磯部
神社越後國頸城郡大神社水島磯部神社古志郡相原

石部神社三島郡海島石部神社と見えたり右に謂
 由る大神社の當郡奴奈神神社居多神社と御在
 坐其居多神社大己貴神小渡り世給へるを此ハ
 古事記小此八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之
 時云云と有る故事の御在坐し神跡ありは甚止事
 無き所由有る御社共あり大同類聚方小志乃久良藥
 と云有る越後國大神社傳方元波大己貴命傳方也大
 領大神臣玉手等之家方と見え又小三輪藥越後國頭
 城郡居多神社傳方元者少彦名神刺大己貴神傳方祝
 子大神保公等家方也と見えたりと其所以深事

ありを思ふ可し
 因云元明天皇御紀小和銅五年九月
 大改官奏小因て始置出羽國と見え
 陸奥越後二國始置此國也と有る和名抄小飽海田川
 出羽等三郡越後より地持地小今謂の庄内
 の地是なり其飽海郡荒瀬郷宮形村と云小城輪神社
 羽國正三位勳四等月山神正三位勳三等大物忌神並
 授從二位從五位下勳七等表物忌神城輪神並從五位
 上と如此有る式外神あり備此城上郡三輪
 神の字を取て城輪と云ふ非なり田村名柄云く神
 体ハ本像より左右二柱並坐るを俗に云ふ戎大
 黒の狀より希頂小帽の如き物を冠し給ひ一
 柱ハ笏を執り一柱ハ玉を持給へる古雅なり中
 小三百年五百年の物小非羽源記寂上越と云
 小軍書の中流瀬郷觀音寺村の楯持小持築出雲守
 と云有る其城輪神の本地と云を觀音勢多ありと云
 あり思合する小城輪神の神職と聞ゆ必由有る事
 不可し又神名式小丹波國桑田郡出雲神社名神一宮

公改傳事記小和
銅四年辛亥始出現
と云り社家説小中素
交鴨守左大己貴命
右稻田命と云り又
氷上高小美和御賀
麻石法郎有神名式
小同部姑前神社坐
神社坐給一申有小
又

記小三穗津姫命と記し頭注小天津彦根命一座三
穗津姫命一座と有り大物主神の后神小坐り但馬一
覽記と云物小古老の口傳を載て云く古音此在馬國
に云く地神四代彦火火出見尊の御世諸國己小開け
け此國ハ未開けず洪水逆行して民の居べき平地も
無く五穀を殖る田野も無く水龍蛇悪蝎の栖處と成
り人民を害しけりハ天皇彦火火出見尊開給ひて大
物主命倉稻魂命大己貴命少彥名命天日方命小勅命
傳在坐一此國ハ被遣けりハ五神勅を奉て淡路島より
此國ハ人民等を引き連れ出頭坐して瀬戸湊を切開き

大河を通し給ひしハ洪水悉く流尽て平土成此
山野を焼て驅給ひ水蛇龍逃水去て害を
成す事も無く倉稻魂命百穀を播し民も五穀を作
事を教給ひて人民繁昌國家太平ありと有る此彦火
火出見尊の勅命を云る傳の誤下此ハ國土經營
の古より有べき事申けり便諸神名式の出石郡
出石神社名神の所祭を御神体大物主命天日捨命と
書せりも必受る所有べし緒又式小朝来郡朝来石部
神社乃我石部神社坐を傳二十四二十小二方温泉記
を引て注せり如く彦河國坐飲部砥鹿神社坐り小

公國傳云小石部神大
日村小石部神大明神
也云々云々云々

其風土記小砥鹿神社所祭大物主神也と有を證と爲
べし其出石郡須義神社を頭注小三輪同体と云り
又因幡國巨濃郡大神社因幡民族と云物小本浦住村
荒砂大明神と云ふ土人云龍宮より鯛の腹小宿り給
ひて上り給ふ故小其氏子鯛を食ずと云り和名抄邑
美郡美和郷と云ふ有り又伯耆國郷名小久米郡上神
上神と有る神字を逆微と訓たれども同郡大鴨小鴨
と云ふ有る就て思ふ小和泉國大鳥郡上神加無都
美和
有小例して訓てきあつ神名式小會見郡胸形神社大
神山神社見えたり但此を例の如く意富無和と訓た
れども出雲風土記同引の文小大

神岳と有る石見國の佐比賣山小對入たる其ハ素戔
姫山の義あり可き由傳十三卷二百九十四下注々
が如く若く見ると時ハ其ハ東水臣津野命の坐小依て
大神山と云り此ハ此ハ例の大神神社と一小也
爲し難又神名式小播磨國完栗郡大倭物代主神社此
海事ハ上二十小己小注せり如く大物主神小渡
りせ給へるを本小物字を許登り訓誤り同郡海形
神社和名抄小三方郷有る思合可又賀茂郡大神
郷日有る式小石部神社坐り由有る事共あり又美作
國郷名小苦東郡美和大庭郡美和有り其子細未
考得ず神名式小備前國邑久郡美和神社本國神名帳
小從三位美和明神と有り上神道郡大神神社四座國

帳小如何して漏れけり警梨郡正四位下神明神津
 高郡從四位上神明神と申すふ在^ニ在^リけり又式
 小備中国下道郡神社見えたり諸古事記小生吉備
 児島亦名謂建日方別と有小就て記傳五^{二十}小姓氏
 録小久斯比賀多命又攝御方命と作し是を書紀崇
 神天皇御卷小天日方奇日方命と有し此命ハ大神
 君鴨君の遠祖あり然る小神名式小備前国邑久郡小
 美和神社上道郡小大神神社有し赤坂郡津高郡児島
 郡小鴨神社有し此等も由有し事少^一採^ト有し是小
 其所以知るべし^一猶赤坂郡宗形神社津高郡宗形
 神社の御在し坐し必右の所由

三代實錄小貞觀三
 年十月廿日庚申備後
 國正位上大神神天照
 眞良建雄神並接授
 五位下と見え此天照
 眞良建雄神小神名式
 小備後國津郡須佐
 能乎神社見多し由傳
 亦三卷三百三十五上
 田百樹説を引く云々
 大神社の所在今詳ふ
 べし又

小周防郡熊毛郡美和と有し式小熊毛神社と有し若
 其ふしと思合す可し事と有し此讚岐同多度郡雲
 氣神社を或説小今金毘羅山是ふしと云し神社本記
 小讚岐同金平神社大己^紀伊国牟婁郡小三輪の地有
 貴命と有し合し心あり^紀伊国牟婁郡小三輪の地有
 日高郡小三穂の地有し必此大物主神三穂津姫命
 小所縁有し地名小こり有けり一萬葉三十八小若
 毛零未雨可神之埼狭野乃渡尔家裳不有國七^{二十}小
 神前荒石毛不所見浪立奴從何處將行與奇道者無荷
 と有し此ハ今も三輪と云地の事あり又三^{二十}小往
 紀伊國見三穂石室作歌小皮為酢寸久未能若子我伊
 座家留^一云三穂乃石室者雖見不能鴨^一云家礼^一又
 家牟

四十 加麻幡夜能美保乃浦廻之白管仕見十方不怜無
人念者七二十小風早之三德乃浦廻守榜舟之船人動
浪立良下と有ハ日高郡三尾莊ふる日御崎の傍小美
保浦と云有る是なり此日御崎の堤中納言物語小竈
山と日御崎の絶間ハ在ル云々云ハ古く聞え
る地名ふるを山雲國ハ日御崎又美保ふと同名有
事奇傳十三ト云ベ一傳又熊野三所の中注小那智ハ大己貴
神傳ト渡ルセ給へる事何れ上古の神跡ふる可
しむ事傳十八九十ハ下素戔嗚大神ハ神都ハ其紀
伊國ふる可子由委一考注せら小合世思ふ可一

む又神名式小阿波國名方郡大御和神社今名東郡有
中村小御在一坐一其由來今知一又讚岐國多
度郡雲氣神社今世一名高一金毘羅社是一ありと云り
四條殿藏神社本記一金平神社大己貴命と有一世小
傳ふる所一三輪日吉同体と云り又神名式小土佐國
幡多郡賀茂神社谷重遠一式社考一引證せる風土記
小神河訓三輪川源出北山之中一届于伊與國水清故為
大神釀酒也用此河水故為河名也訓神字為三輪多氏
古事記曰崇神天皇之世一傳迹一媛皇一為大三輪大神
婦一每夜有一壯士一密來曉歸皇一思一以綜一麻貫針及壯士

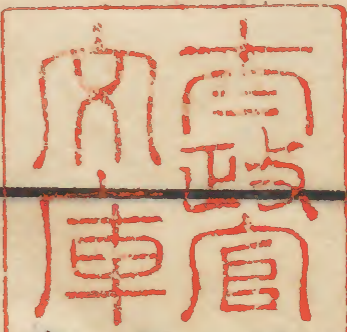
之曉去也以針貫禰也及旦也省之唯有三輪遺器者故
時人稱為三輪村社名亦然云云と有る此を萬葉注釋
小引るあるが右の古事記曰以下ハ仙覺ハ大和國の
故事を書入たる者多し此小神河の名有る訓神字爲
三輪者多氏と云々ハ大神朝臣賀茂朝臣ハ共小大國
主神より出テ同族あり有れば此賀茂神社ハ屬テ
其兩氏より人多く任へるを云ある可し國造本紀ハ
都佐國造志
賀高穴穗朝布世代長阿比古同祖三島溝杭命九世孫
小立足尾定賜國造ハ有る但續後紀ハ長我孫葛城事
代主命八世孫忌寸宿祢苗裔也と見えればハ三島溝
杭命ハ同祖と云ハ違へる不似たり事代主命ハ爲る
時ハ賀茂神社の事ハ大神賀茂兩氏の事ハ能合
少備右小古事記曰と引るハ日本紀の事をハ亦

大神八佐賀美男神
大神八佐賀美男神
大神八佐賀美男神
大神八佐賀美男神
大神八佐賀美男神

混へて引れば又神名式小筑前國夜須郡於保奈牟
合ぬ事共多在り
智神社此ハ神功皇后元年御紀征韓ハ御政の所ハ今
諸國集船船練兵甲時軍卒難集皇后曰必神心爲則立
大三輪社以奉刀矛兵軍衆自聚ハ有る此御時ハ齋奉
ハ世給へるあり筑前風土記ハ氣長足姬命欲伐新羅
整理軍士發行之間道中逃亡占求其由即有崇神名曰
大三輪神所以樹此神社遂平新羅ハ有る是あり今亦
永村小大神大明神と立世給へり又和名抄郷名小
筑後國山門郡大神有る本國神名帳ハ郡不知正六位
上大神神社又大神神社並井郡正四位上大神神社從五
三猪郡

位下大神社正六位上大神社又大神社山内郡正六位
上大神神又大神社又大神國玉神云々有又和名抄
郷名小豊後國速見郡大神有平家物語小祖母岳明
神の故事を載たるハ彼古事記水垣宮殿云々三輪の
故事小全く同トシハ其を彼國小の事小取成云々
る物ふ云々其御齋の大神氏の位へ云々不就云々引附云々
り云々者云々めり尾張人秦鼎云々所書雜史云々物小云々
平家物語小豊後國祖母岳明神の事を云事三輪の故
事小同ト大友興廢記云々此説を載云々猶云々彼國ハ
豊後國入田云々桓武天皇の御時堀川大納言某吉方云々

莊日野小田名宇田村小配流有云々其ハ小祖母岳の神
通云々弘仁二辛卯年三月五日一男子を生ず是大神朝
臣惟基云々云云々今佐伯氏其子孫小云々伊勢國の
津小任云々彼家銚劍多云々中云々巴作云々云云々大刀ハ
祖母岳云々相傳云々号云々大云々秘云々藤堂高次寛永三年
十月十日彼大刀を見云々ハ云々時座敷云々板敷云々願落云々
思云々ハ云々所祭豊玉姬命云々見云々又
神名式小對馬島上縣郡島大國魂神社島大國魂神子
神社御在云々坐云々此御事小就云々説有云々其ハ傳云々廿三云々
三十云々小注云々仁位倍精云々云云々人の書云々物小昔神功皇



后新羅國御征伐の時網懸の沖小て大三輪神崇を成
 給ふ小依り皇后の御船危りゆぬ是を以て占給ふ小
 大三輪神の崇ふ小依り御祈願有しりハ皇船恙く
 豊村小着せ給ふ此小因り皇后親此島首明神を祭給
 へり小大三輪神を配祭り島首明神を以て本神と
 大三輪神を以て那祖師明神と号し二神一体として
 送拜所を豊村の濱小建て祭給ふ即島大國魂神社是
 あり又事代主命をして島大國魂^神子神社と祀り
 今若宮と称して那祖師明神の攝社とす^と所見なり
 右小送拜所と云ハ其祭祀を執行ふ科小設り此なり

明治七年夏七月廿四日校合 菅政友

